

令和7年5月14日(水)付南日本新聞 11面に薩摩中央高支援米についての記事が掲載されましたので、紹介します。

薩摩中央高支援米を販売

さつま企業 教材贈呈、部活に寄付



さつま町唯一の高校である薩摩中央高校を応援しよう、町内の企業が支援米を企画、販売している。売り上げの一部を使って生徒が必要とする教材などを贈る予定。関係者は「地元を力を集め、高校を盛り上げたい」と話す。

手がけるのは同町田原の精米・販売の「谷口商店」

で、「マエゾノスポーツ」が協力する。同商店は全国大会の遠征費確保に苦慮しているウエイトリフティング部に寄付金を贈ったり、同部員に集荷作業を手伝ってもらったりして交流を深めてきた。

支援米は町内産ヒノヒカリ2号。ラベルには各部員の写真をあしらひ、文字は

薩摩中央高校を応援する米を手にする生徒と企画した町民ら

＝さつま町田原



書道部が書いた。町内外のスーパーなどで扱っており、マエゾノスポーツでは2千円で販売する。なくなり次第終了。

ウエイトリフティング部の川口映美主将は「地域の方の支えはありがたい。ここ最近の部活動はどの部にもぎわっており、結果で期待に応えたい」と誓った。

同商店専務で同校前身の宮之城高校の卒業生でもある谷口雄一さん(40)は「米の確保は大変だが、さつま町を好きになってくれる生徒が一人でも増えればうれしい」と話した。(山田天真)

薩摩中央高校を応援する支援米

＝さつま町田原